

# 輪島塗

## 歴史

輪島塗の発祥は、約1000年前の大陸伝来説、15世紀初めに輪島にきた根来僧が普及させた説、近くの柳田村に伝わる合鹿碗[ごうろくわん]が原型という諸説があるが、文明8年(1476年)には輪島に塗師がいたことは明らかになっている。天正10年(1582年)加賀藩主の能登巡行の際、すでに輪島塗の特徴である地の粉が使われており、輪島独自の加飾技法である沈金[ちんぎん]は18世紀に完成、蒔絵[まきえ]は19世紀初め会津からもたらされている。

漆器の販売は塗師屋[ぬしや]が商品見本を背負い全国各地を行商してまわり、販路を拡大していった。特に、18世紀から講組織による販売が加わり、飛躍的に需要が伸びるとともに品質向上がはかられた。また、北前船によって全国に運ばれ、その名声を広げていった。

## 特色

堅牢な塗りと加飾の優美さを特徴とし、日本を代表する漆器として高く評価されている。

特に、輪島特産の地の粉(珪藻土の一種)を下地に塗り、塗り上げるまでに20工程以上、総手数では75~124回にも及ぶといないな手作業で作られるため、堅地漆器の名声を博している。

さらに、木地の外側や損傷しやすい箇所には漆で麻布を貼る布着せの技法や地付けの際、下地が剥離破損し易い上縁に栓皮笥[ひかわべら]で生漆を塗る地縁[ちぶち]引きが、漆器の品質と堅牢度を高めている。

また、加飾にも優れ、特に、沈金技法は輪島で完成したといわれ、多くの名工を育ててきた。

昭和52年4月25日国の重要無形文化財に指定されている。



[昭和50年5月10日伝産法指定]



*Wajima Lacquerware*

## HISTORY & FEATURES

There are legends about the origin of Wajima lacquerware: it is said to have been introduced from China about 1,000 years ago, developed by a priest of Negoroji Temple in the early 15th century, or to have originated from wooden cups called goroku-wan produced in the village of Yanagida-mura. Whatever the origin, it is clear that there were lacquer coaters in Wajima in 1476. *Jinoko* powder (made from diatomaceous earth), which strengthens lacquerware, was used in 1582 when the lord of the Kaga clan visited Wajima, and the technique of *chinkin* (sunken gold decoration) was perfected in the 18th century. The *maki-e* gold-relief technique was introduced from Aizu, Fukushima Prefecture in the early 19th century. The beauty and high durability resulting from the sophisticated techniques used to make Wajima lacquerware make it one of the outstanding lacquerwares of Japan.

## 情報 INFORMATION

主な生産地	輪島市(Wajima City)
主な製品名	飲食什器、室内装飾品、茶道具 (Tableware, interior decoration items, tea ceremony utensils)
主な生産者	輪島塗器商工業協同組合 (Wajima Lacquerware Commerce and Industry Association) 〒928-0001 輪島市河井町24-25 TEL (0768)22-2155 FAX (0768)22-2894 MAIL info@wajimanuri.or.jp http://www.wajimanuri.or.jp